

【学力フォローアップ校】「学力に大きな課題がある児童への指導について（効果のあった実践事例）」

<p>小学校名 呉市立昭和西小学校</p>	<p>指導者名</p>
<p>学年 第2学年 教科等 算数科</p>	
<p>単元・内容 「ふえたり へったり」</p>	
<p>検索キーワード 演算決定が難しい。</p>	
<p>○ 児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の意味を理解し、問題場面をイメージしたり、演算決定したりすることが難しい。 ・図や言葉を使って計算の仕方を考えることができず、答えを導き出せない。 <p>○ ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み取り、演算決定をすることができる。 ・図や式などを使って、「まとめて考える」考え方で答えを求めることができる。 <p>○ 手立て</p> <p>① 学習問題の提示の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に場面把握ができるよう、聞かれていることや分かっていることに下線を引かせたり囲ませたりする。 ・挿絵と文と対応させながら、問題を提示する。 ・問題文が読みやすいよう、1文ごとに分けて問題提示する。 <p>② 視覚的に数の増減を捉えやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作化したり、挿絵を動かしたりしながら、数が増えたり減ったりすることを意識させる。 ・動きシートを使って、差し引きの場面に気付かせる。 <p>③ 学習の足跡や教室掲示を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「算数のかぎ」を活用させる。 ・たし算やひき算の言葉を色分けし、立式しやすくする。 ・前時までの学習内容を掲示し、ヒントにさせる。 <p>④ ヒントカードを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立式する前に図をかかせる。 ・挿絵や図と問題文を一致させ、増減をイメージしやすくする。 ・矢印を使うことで、増減を捉えやすくする。 <p>○ 児童の変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「算数のかぎ」の活用、問題文への印（下線、囲み、色分けなど）をさせることで、増減を意識して問題を解くことができるようになった。 ・ヒントカードを活用することで、まとめて考える方法で計算することができるようになった。 	

たし算ことばには「赤」
ひき算ことばには「青」の下線

みかんを15こ食べていました。
お母さんに6こもらいました。
そのあと2こ食べました。
今みかんは何こありますか。

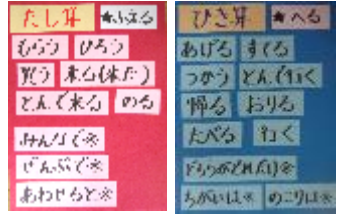
動きシートで増えた・減った
をイメージしやすくする。



前時までの学習内容



「算数のかぎ」



文と挿絵と図が一致しイメージ
しやすいカード

